

コンピュータでポスターデザイン

中学校美術 2年/A デザイン

コンピュータ活用のアイデアとメリット

- 画面の色や構図を自由に何度も試行錯誤することができる。
- 写真画像を簡単に取り込み、編集することができる。
- 文字の書体、大きさ、色などを自由に変えることができる。

対応する学習指導要領の内容

中学校 美術 2年 / A表現(3)ウ 伝える目的や条件について理解し、伝える内容を明瞭に美しく表すデザインの構想を練ること。

指導目標

ポスターの目的や機能を理解し、写真画像等を活用してイメージ豊かに表現する。

コンピュータ活用のねらい

ポスター制作では従来制作の用具として絵の具が多く使われてきた。この場合文字のレタリングや図柄の描画、着彩などに多くの時間を要し、また、手作業が不得意な生徒にとって美しく仕上げることは困難であった。

コンピュータでは画面全体の構図や配色を自由に試行錯誤でき、文字も瞬時に配置できるが、ここでは特に多くの写真画像を平易に扱える機能に着目し、活用していきたい。

使用するソフトのCD-ROM内には、400枚近い写真があらかじめ準備されている。選択した写真画像はソフト内に画像

として見える形でストックしておく。一度ストックされた写真画像等はいつでもマウスで移動しながら画面上で編集することができる。

さらに、ちょうどTPシートのような感覚で扱える5枚の重なった透明シートがあり、この上に配置したそれぞれの写真や絵を自由に組み合わせていける。重なっている上の方のシートの写真画像の不要な部分を消去すると下のシートの画像が表示される。また、各シートの透明度を変更する機能などもある。

それぞれの機能を工夫して活用し、変化と統一感のある美しいポスターを制作させていきたい。

完成後は印刷し、掲示するなどして実際に活用していきたい。

実践のポイント

(1) ポスターについて理解する

参考作品や日常街角で見かけるポスター等をとおしてポスターの目的や機能を理解し、制作に対する関心や意欲を高める。

(2) ソフトの基本操作を理解する

初めてこのソフトを使用する場合はすぐにポスター制作にとりかかるとはではなく、図形作成機能や色の塗り込み機能、基本的な編集機能などを活用した色彩構成学習に取り組む。この制作を通してソフトの操作について理解する。マウスでは鉛筆を使って描くようなスケッチは描きにくいので写真を活用することを理解する。

(3) 写真画像の取り込みを理解する CD-ROM内から写真画像を取り込む方法を理解し、画像データをストックすることができる箇所に制作に必要なと思われる写真を収集する。

従来のポスター制作ではアイディアスケッチなどをしながら

らテーマにそった図柄をまとめていったが、ここでは、はじめにイメージしたものととらわれるのではなく、たくさんの写真を見る中で伝達したいテーマを探ったり内容を深めていく方法をとる。ある程度イメージがはっきりしてきたら、ポスターのテーマと関連性、色や形、大きさなどについて配慮して写真を収集させていく。

(4) 画面構成を工夫し効果的な文案や必要な情報を考え配置する

写真などがストックされている場所から、写真画像等を自由に入れることができるシートを選び、マウスで画面上に写真を移動し、配置する。このとき、画面上で背景になるものほど下のシートに、手前にくるものは上のシートに配置することを理解させる。

各シートに入れた写真のどの部分を活用したらよいかを考えながら、不必要な部分を消したりして全体の構成を整える。

各シート上の写真や図にどのような効果や透明度を加えたら全体に見やすく美しくなるかを考えさせる。

全体のイメージができあがってきたら、一番上のシートに適切な書体や色、大きさを考え文字を入れる。

(5) 印刷し掲示した作品を互いに鑑賞しあう

標準では A4 版に印刷するが、必要ならば分割して印刷することができるので、大きく印刷して掲示し、ポスターとして実際に活用できる。これらの作品を掲示し互いに鑑賞しあう。

生徒の反応

授業後に生徒たちはつぎのような感想を残した。

「とにかく楽しかった。いろいろな写真を見ているとだいたいどんなポスターを作るかが決まってきた。おもしろい作品ができた。」

「ふつうだと考えられないような構成とかをするととてもかっこうよく見えた。見ていてあきない。文字に影をいれたりグラデーションにするとよくめだった。」

「写真がたくさんあって迷ったけれど、写真を見ているうちにイメージがたくさんわいてきておもしろかった。透明度で美しい効果を出せたと思う。」

「どの人も工夫していてすごいと思った。来年もこんな作品をもっと工夫して作りたい。」

生徒たちは多くの写真の中から必要なものを選び、最終的には個々のイメージにあった作品を構成し、適切な文字を配置して効果的なポスターを制作することができた。スキャナーやデジタルカメラで自分たちで描いたものや撮影した写真などを取り込む方法も組み合わせることができると表現の幅が広がるだろう。今後も写真画像を扱う場合には、著作権や肖像権などに配慮して取り組ませたいと思う。

なお、今回は生徒機は20台なので全体時間が6時間であるが、40台ならば3時間程度で学習可能である。